

2026年4月公立化に向けて準備中

時期は予定であり、変更の可能性があります。

東北公益文科大学大学院  
GUIDEBOOK 2026

公益学研究科

公益学専攻 修士課程

公益学研究専攻 博士後期課程

「学」と「社会」を結び付け、公益社会を実現する



2026年4月公立化に向けて準備中

時期は予定であり、変更の可能性があります。

2026.4

さらなる挑戦！

Further Challenges!

公立化へ  
始動。



東北公益文科大学大学院

社会変革期に求められる  
学際的な知識、スキルを修得し、  
公益社会の実現に向けた研究に取り組む



2026年度以降は、公立化とともに  
「学」と「社会」を結びつける取り組みの強化を更に進めます



公益学研究科長  
武田 真理子

山形県庄内地域の産業界、自治体、市民の応援と協力を得て、東北公益文科大学大学院が鶴岡市に開設されてから21年が経ちました。世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として、これまでに171名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出しています。修了生は大学院で修得した専門知識と研究成果を活かし、行政、民間企業、NPO法人、教育機関をはじめ、様々な現場で課題解決に取り組み、活躍されています。

世界及び国内情勢が大きく変革している現在、生涯にわたり学び続けること、そして自身の問題意識に基づき研究に取り組むことの重要性が高まっています。本学大学院では、2022年度（令和4年度）以降、＜公益社会の実現に向けた「学」と「社会」を結びつける＞ための改革を実行して参りましたが、2026年度（令和8年度）からは公立大学としてさらなる発展を目指すことになりました。大学院での学びと研究を希望される方々の声を受け止めながら、公益学研究科ならではの学際的な研究、地域連携・社会連携に基づく実践的な学びを行うための機能強化を進めて参ります。

多くの大学院生とともに、地域、社会の未来を切り拓くための教育・研究に挑戦して参りたく、皆様のご入学をお待ちしております。

## 特色

### 学際教育・学際研究を実現するための研究指導体制

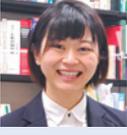
修士課程には、公共経営領域、国際関係領域、情報科学領域、地域共創領域の4つの研究領域があります。自らの専門とする領域を選択し、研究の柱となる学問への理解を深めるとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。博士後期課程では、教員3名によるグループ指導を行います。

### 産学官の連携による研究・プロジェクトにより地域課題解決を目指す

修士課程には「発展科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要なとされる異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力等を身に付けます。

### 研究指導教員

修士課程または博士後期課程の指導ができる教員を掲載しています。(職位、氏名、専門) ホームページでは、詳しい内容をご覧ください。

 <p>学長・教授 神田直弥 交通心理学 人間工学</p>	 <p>研究科長・教授 武田真理子 社会政策 公益学</p>	 <p>学部長・教授 三木潤一 公共経済学 財政学</p>	 <p>教授 梅津千恵子 環境資源経済学 農業経済学</p>	 <p>教授 星宏人 英語学 言語学</p>	 <p>教授 澤邊みさ子 社会福祉 障害学</p>	 <p>教授 阿部公一 年金教育</p>	 <p>教授 呉衛峰 比較文学 比較文化</p>	 <p>教授 呉尚浩 公益学 環境社会学</p>
 <p>教授 松田憲 応用言語学</p>	 <p>教授 古山隆 リサイクル工学 資源処理工学</p>	 <p>教授 広瀬雄二 情報処理</p>	 <p>教授 森元拓 法思想史 法哲学</p>	 <p>教授 広崎心 マーケティング論 経営戦略論</p>	 <p>教授 青木孝弘 社会起業論 アントレプレナーシップ</p>	 <p>教授 山本裕樹 物理学</p>	 <p>教授 門松秀樹 政治史 政治学</p>	 <p>教授 小野英一 人事行政</p>
 <p>准教授 加藤良浩 現代英米文学</p>	 <p>准教授 東江日出郎 国際開発学 開発と政治</p>	 <p>准教授 西村まどか 素粒子物理学 機械学習</p>	 <p>准教授 植田和憲 情報ネットワーク</p>	 <p>准教授 白旗希美子 教育社会学</p>	 <p>准教授 小関久恵 ソーシャルワーク 社会福祉学</p>	 <p>准教授 樋口恵佳 国際法 国際海洋法</p>	 <p>講師 平居悠 天文学 銀河考古学</p>	 <p>教員紹介</p>
								 <p>リレーエッセイ 「公益の風」</p>

### 学修・研究の支援

#### 昼夜開講制

科目は平日の夜間や土曜日を中心に開講します。修士課程については、8月・2月の集中講義とあわせて、1年次に共通科目・専門科目の単位を修得し、2年次に調査や論文執筆等に集中することも可能です。

#### 研究ブース・致道ライブラリー

院生1人につき、ひとつの研究ブース（デスク、ロッカー）が用意され、24時間いつでも利用できます。文献データベースの利用が可能で、致道ライブラリーでは他大学の図書の取り寄せも可能です。(パソコンは各自用意が必要です。)

#### 研究活動の費用補助

学会等で研究発表を行う場合の旅費・参加費の補助があります。

#### オンライン授業

文部科学省が定める「多様なメディアを高度に利用した授業」として、2016年度からオンライン授業を実施しています。(来学が必要な科目等もありますので、詳しくはお問い合わせください。)

### 修士課程にスクールソーシャルワーク教育課程を設置

全ての子どもが通う学校を基盤とし、自治体や児童相談所など複数の機関と連携して児童・生徒の抱える問題を解決に導くスクールソーシャルワーカー。本学大学院では、修士課程にスクールソーシャルワークを専門的に学べる教育課程を設置しています。所定の単位を修得し修了した方には「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

### 多様な学び方が可能

平日の夜間や土曜日を中心に授業を開講しています。「長期履修制度」や相互にやりとりをするオンライン授業も整備しており、働きながらでも研究に勤むことができる環境があります。

入学者には大学を卒業したばかりの若者だけでなく、働きながら学ぶ方も多く、多様な職業の人と共に学びを深めます。



大学設立宣言



理念・使命



教育研究上の目的



# 修士課程

## 養成する人材像

### 知識基盤社会を多様に支える 高度で知的な素養のある人材

社会変革における課題解決及び価値創造に求められる、公益学を構成するディシプリン、データサイエンス等の基本的リテラシー、多様な主体との対話と協働の技法を身に付け、右記の4つの研究領域において活躍する人材

### 研究者

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者に求められる専門知識、ディシプリン及び研究の方法を身に付け、博士後期課程へ進学する人材

#### 公共経営

少子高齢・人口減少社会において、公私を問わず多様な主体の協働による公共経営をリードできる人材

#### 国際関係

SDGsの達成に向けて多様な主体と連携した国際関係の構築、地域の国際化をリードできる人材

#### 情報科学

オープンデータ/オープンソースの思想、分け隔てなく情報交換するための意義と基盤技術を理解し、地域のDX推進に貢献できる人材

#### 地域共創

「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、地域デザインとソーシャルワークの視点から多様な主体と連携した地域共創・地域づくりをリードできる人材  
スクールソーシャルワーカーの専門的知識、分析力、実践力を備える人材

ディプロマ・ポリシーは10ページに掲載しています

## カリキュラム

科目区分		研究領域および科目名			
共通科目	必修科目	公益学総論 論文作成法 共創の技法			
	選択科目	情報基礎	統計学	社会調査論	哲学 倫理学 ゲーム理論
専門科目		公共経営領域	国際関係領域	情報科学領域	地域共創領域
	コア科目	公共経営研究1 (財政学) 公共経営研究2 (法学) 公共経営研究3 (政治学) 公共経営研究4 (行政学)	国際関係研究1 (国際関係論) 国際関係研究2 (国際法) 国際関係研究3 (比較文化特論) 国際関係研究4 (環境資源経済学)	情報科学研究1 (公益情報システム) 情報科学研究2 (データ解析特論) 情報科学研究3 (多変量解析) 情報科学研究4	地域共創研究1 (公共性の社会学) 地域共創研究2 (社会政策) 地域共創研究3 (ソーシャルワーク) 地域共創研究4 (NPO・非営利組織論)
	選択科目	公共経営研究a (公会計) 公共経営研究b (会計学) 公共経営研究c (経済学) 公共経営研究d (経営学) 公共経営研究e (組織論) 公共経営研究f (公共政策)	国際関係研究a (移民・難民論) 国際関係研究b (多文化共生論) 国際関係研究c (グローバル・ガバナンス論) 国際関係研究d (開発途上国の政治) 国際関係研究e	情報科学研究a (情報ネットワーク特論) 情報科学研究b (人間工学) 情報科学研究c (情報数理) 情報科学研究d 情報科学研究e	地域共創研究a (ソーシャルキャピタル論) 地域共創研究b (地域活性化論) 地域共創研究c (合意形成・コーディネーション論) 地域共創研究d (スクールソーシャルワーク論) 地域共創研究e (地域の歴史と文化)
発展科目		スクールソーシャルワーク演習* スクールソーシャルワーク実習指導* スクールソーシャルワーク実習* プロジェクトa プロジェクトb プロジェクトc プロジェクトd 特別セミナーa 特別セミナーb 特別セミナーc 特別セミナーd			
自由科目		教育行政* 生徒指導論* 進路指導論* 教育心理学* 教育相談の理論と方法* 精神保健学* 児童・家庭福祉論* 公的扶助論* 教育学*			
演習科目		演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 演習(副)			

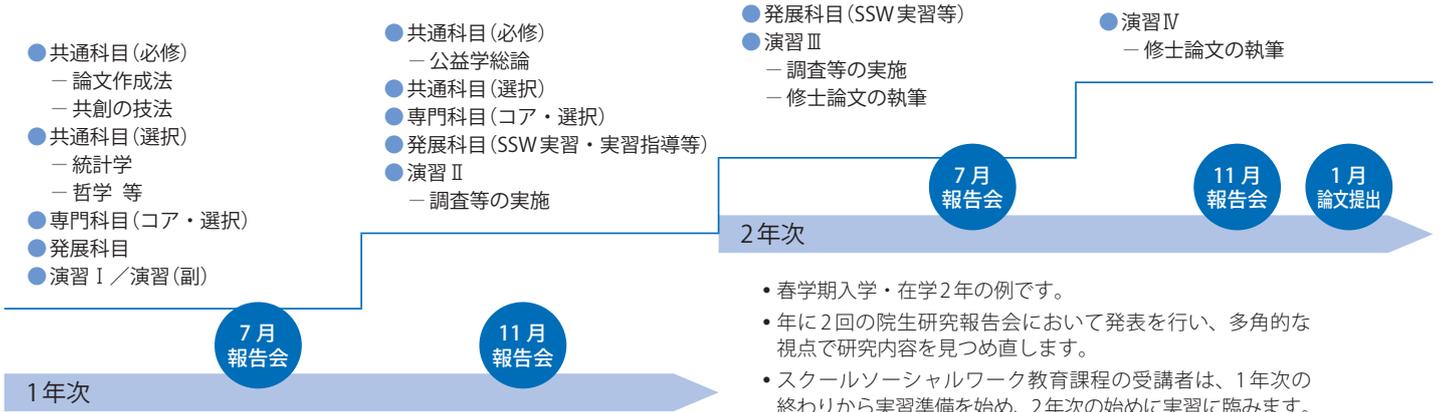
\*スクールソーシャルワーク教育  
課程受講者のみ履修可能



カリキュラム・ポリシー



## 学修・研究のステップ



## 研究指導体制

研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。

## 近年の修士論文のテーマ

- ・地方都市における必要老後資金の実態に関する分析
- ・退去強制事案における外国人の裁判を受ける権利の研究
  - － 国際人権法の視点から－
- ・災害時の児童の避難行動について行政が果たすべき注意義務は何か
  - － 大川小学校津波訴訟を手がかりとして－
- ・家族介護者支援の実践モデルの提案
  - － 官民連携型「認知症カフェ」のケーススタディー
- ・明治後期における教育と公益 — 齋藤七郎を事例として —
- ・日本のフェアトレード市場拡大のための一考察
- ・地域における不登校児童・生徒の居場所に関する研究
  - － 山形県で展開されているこどもの居場所を対象としたインタビュー調査を中心に —

## 免許取得・教育訓練給付制度

### 中学校教諭専修免許(社会)・高等学校教諭専修免許(公民)

一種免許状を有している方が必要単位を修得すると、申請により免許を取得することができます。

### 教育訓練給付制度

本課程は厚生労働省より「教育訓練給付制度」のうち、一般教育訓練の講座指定を受けています。対象の方が申請することで、100,000円の給付を受けることができます。

## 長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限(2年)の間に修了が難しい場合、申請が認められると、在学を最長4年に延ばすことができます。授業料は2年分の納付のみであるため、経済的な負担も軽減します。(入学時に申請が必要です。出願前にご相談ください。)

**制度活用の例**

修士課程1年次 研究テーマ「地方公務員の人材育成・研修」



**演習 I**  
「社会政策」  
先行研究レビュー  
研究計画の策定等



**演習 (副)**  
「政治学」「歴史学」  
制度の歴史  
基本書の輪読等



私の大学院入学を後押ししてくれたのは、「長期履修制度」と「演習(副)」の制度です。

長期履修制度は、遠方からの通学を考えている方や、社会人として勤務を続けながら大学院で学び・研究してみたい方など、時間的制約のある方にはとても有効です。私はこの制度を活用して、計画的に4年間での修士論文の執筆を目指しています。

また、1年次の演習(ゼミ)は「演習 I」に加え、「演習(副)」も履修すると、専門の異なる先生の下で学びを深めることができます。研究テーマの分野が複数に渡る方、多様な視点を組み合わせる研究したい方にはおすすめです。



**須田さん**  
(自治体職員)



厚生労働省HP  
教育訓練給付制度



## スクール ソーシャルワーク 教育課程

### ■ スクールソーシャルワーカーとは

#### 子どもに寄り添う、「チーム学校」における 社会福祉の専門職

学校の教員・養護教諭・事務職員、スクールカウンセラー、教育委員会等と協働しながら子どもと家庭、学校を支えます。いじめや不登校、その他のさまざまな問題に対し、学校の中にとどまらず、地域の多様な人や関係機関とともに、子どもの置かれた環境への働きかけを行い、改善を目指します。子どもが元気に学び、成長できる環境を整えるため、子どもと保護者を学校の中と外の両方から支援します。

#### <活躍の例>

都道府県・市区町村の職員、私立学校の職員として下記のこと等に取り組んでいます。

- 問題を抱える児童・生徒が置かれた環境への働きかけ
- 保護者や学校教職員等に対する支援・相談・情報提供
- 関係機関等とのネットワークの構築、連絡・調整
- 学校教職員等への研修活動

### ■ SSW教育課程で取得できる資格

本教育課程修了者には、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定 スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

### ■ SSW教育課程の受講資格

修士課程の出願資格を満たし、かつ「社会福祉士」または「精神保健福祉士」の有資格者

(資格取得見込みの方も出願できますが、入学までに資格が取得できなかった場合は、本教育課程の受講はできません。)

### ■ スクールソーシャルワーク教育課程のカリキュラム

SSWerに求められていることや大学院で学ぶ価値などは、  
下記のリーフレットにてご覧ください



本学大学院HP  
SSW教育課程

#### 児童福祉を研究する社会人学生（自治体職員／退職者・現職者）

**白畑さん**：これまで福祉の業務を担当していました。大学院入学後、文献を複数読んで、そこに共通することを研究テーマに沿って整理していくと、私が何を明らかにしたいのかが分かってきました。視野が広がったことはもちろん、実務と研究をオーバーラップさせることもできました。「現場」と「研究」の接点が「演習」です。行政組織としての「建前と本音」がある中で働いてきたのですが、研究を通して、社会的に求められる、必要とされることなのかどうかを振り返ることができています。研究を通して得たことは、今後現場に返したいと考えています。



**佐藤さん**：現場では、調べる余裕もなく、対症療法のようにになっていることがあるのが実態です。「なぜ？」と思ったり「肌感覚」でおこなってきたことを学問を通して明らかにし、対応できるようにしたいと考えています。ゼミ（演習）では、SSWerとして活躍されている方にお越しいただき、現場からの知見を共有していただいたこともありました。この課程は先進事例の視察や実習など、充実していると思います！

科目名	単位数	履修区分・科目履修の免除			
		SSW 実務経験 2年以上	教職普通免許 保有	社会福祉士 有資格	精神保健福祉士 有資格
地域共創研究d(スクールソーシャルワーク論)	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク演習	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習指導	2	免除	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習	2	免除	必修	必修	必修
教育行政*	2	免除	免除	必修	必修
生徒指導論*	1	免除	免除	2単位以上 選択必修	2単位以上 選択必修
進路指導論*	1	免除	免除		
教育心理学*	2	免除	免除		
教育相談の理論と方法*	2	免除	免除		
精神保健学*	2	必修	必修	必修	免除
児童・家庭福祉論*	2	必修	必修	免除	必修
公的扶助論*	2	免除	免除	免除	必修
教育学*	2	履修推奨	履修推奨	履修推奨	履修推奨

※印の科目の単位数は、修士課程の修了単位には含まれません。

# 博士後期課程

博士後期課程では、誰かに何かを教わるといよりは、自分が明らかにしていきたいテーマに基づいて主体的に研究を進めていくという姿勢が大切です。指導教員は事細かに研究に関する指示を出したりはしません。自ら研究に取り組み、その上で指導教員の批評や助言を求め、さらに研究を進めていくイメージです。博士後期課程では、自由度が高く、それゆえに自主性が必要となる研究生生活を送ることになります。

## 養成する人材像

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者

## ディプロマ・ポリシー

必要な単位数を修得し、別に定める審査基準による博士論文審査に合格した人材に学位を授与します。

## カリキュラム

研究テーマに関する高度な専門知識を身に付けるために6つの科目と、研究者としてのキャリアを支援する科目を配置しています。

科目区分	科目名		
公益学研究科目	公益学研究 a 公益学研究 b 公益学研究 c 公益学研究 d 公益学研究 e 公益学研究 f		
キャリア科目	キャリアディベロップメント		
研究指導科目	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅳ	研究指導Ⅱ 研究指導Ⅴ	研究指導Ⅲ 研究指導Ⅵ
修了要件外科目	博士論文指導Ⅰ 博士論文指導Ⅳ	博士論文指導Ⅱ 博士論文指導Ⅴ	博士論文指導Ⅲ 博士論文指導Ⅵ



カリキュラム・ポリシー

## 指導体制

「博士（公益学）」が取得できる唯一の大学院です。博士号取得に向けて主研究指導教員1名および副研究指導教員2名から成る研究指導グループの指導により、博士論文を執筆します。学内の「院生研究報告会」だけでなく、学会論文誌への論文投稿や学会発表等を通して研究を深めます。

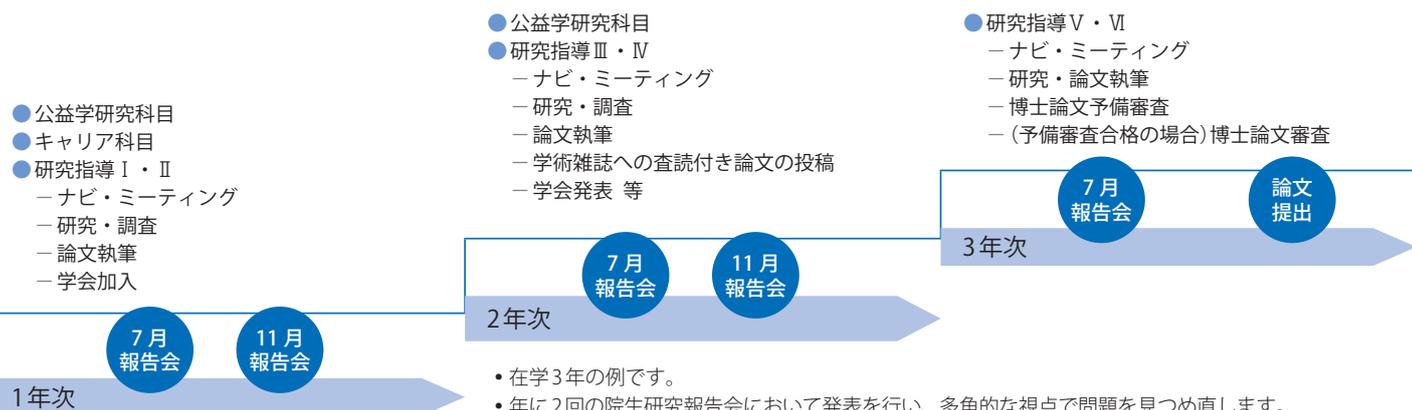
## 長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限（3年）の間に修了が難しい場合、申請が認められると、在学を最長6年に延ばすことができます。授業料は3年分の納付のみであるため、経済的な負担も軽減します。（入学時に申請が必要です。出願前にご相談ください。）

## 過去の博士論文のテーマ

- 自治体の人事システム改革に関する研究
- 日本企業における従業員処遇 ケアの倫理による考察
- ソーシャルビジネスの評価手法と基盤強化に関する研究
- A Post-Implementation Analysis of Digital Transformation Regime for E-Governance in Sri Lanka
- An Analysis of Business Process Reengineering in the Public Service Delivery System of the Government of Sri Lanka

## 学修・研究のステップ



## ゼミ紹介 院生・修了生の声

### 三木ゼミ

教授 三木潤一 [公共経済学・財政学]

2025年3月修士課程修了 遠藤さん (金融機関職員/研究テーマ: 老後資金)

修士課程2年 門叶さん (学部卒業生/研究テーマ: コンパクトシティ)

	三木ゼミ		梅津ゼミ	
	遠藤さん	門叶さん	黒坂さん	三浦さん
2022年度		学部3年		学部2年
2023年度	修士課程1年 門叶さんは大学院のゼミにも任意出席	学部4年		学部3年
2024年度	修士課程2年 門叶さんは「演習(副)」で、黒坂さんと一緒に梅津教授の指導を受ける	修士課程1年	修士課程1年	学部4年
2025年度		修士課程2年	修士課程2年	修士課程1年

### ゼミの様子

門叶: 1年次の演習では、直近の1週間に調べたことをまとめて発表し、三木先生と遠藤さんから問いかけをもらいました。違うテーマの研究をしている方からの質問を受けることで、私が理解できていない部分に気づくこともあるので、とても有意義な時間でした。2年次になり、修士論文の執筆に取り組んでいます。



遠藤: 私は社会人になってから感じた疑問を研究テーマにしました。実務・経験と授業で学んだ理論が結びついていく度にワクワクしたことが印象深いです。入学前談で三木先生に「リサーチクエストを大切に」「何を明らかにしたいのかが重要」と言われたときにハッとしましたし、その言葉をずっと心に持ちながらゼミに臨んでいました。三木先生は私たちの話をじっくりと聞いてくれ、また、問いの答えを考える間も急かすことなく待ってくださいます。意図的に雑談の時間もとってくれているおかげで、研究が進まないときも相談しやすいです。

門叶: 三木ゼミは、学部生・社会人を含む院生・先生という異なる立場の人が集っています。学部生にとっては先生以外にも相談できる人がいますし、説明方法や礼儀なども参考になります。

遠藤: 私は年齢としては先輩でしたが、大学時代の専攻は生命化学だったため、経済学の理論を修得している学部生のみなさんは私にとっての先輩でした。院生と教員の1対1ではなく、「三木ゼミ」としてみなさんと交流することで、それぞれ得られるものがありますね。

### 「演習(副)」のメリット

門叶: 私は1年次に梅津先生の「演習(副)」を履修しました。梅津ゼミでは、隔週で論文1編を要約して発表します。なぜその分析方法を選択するのかや、

導き出された結果の理由などを考えます。分析方法についての理解が深まりましたし、研究テーマの確定にも影響しました。ゼミの時間が他の方より2倍となるので、論文を要約するスキル、レジュメやスライドの作成力、プレゼンテーション力などもついたと思います。

### 院生生活

門叶: 授業の2時間ほど前には共同研究室に来て予習・復習をし、授業がある日はアルバイトをしないなどメリハリのある生活を送るようにしています。

遠藤: 私は勤務先の研修として入学し、同じ部署の方には業務の割り振りに際して配慮をいただきました。ただ、それでも調整しきれず本務がなかなか進まない時期もありましたし、修士論文の提出締め切り間際は、仕事と研究とで頭がバンパンでした。制度としては、大学院にいる時間を業務時間として扱っていただいたり、研究・心身のための積極的な有給休暇の取得も勧めていただきました。同じ部署・人事担当部署のみなさんに応援していただけたことはありがたいですね。



### 研究を通して身に付いた力

門叶: 計画を立てること、データ分析などの専門的なスキルなど、1つのテーマを「追求する力」でしょうか。就職活動で必ず聞かれる「学生時代に力を入れたこと」「自己PR」は大学院での研究そのものかな、と思います。

遠藤: 物事を客観的に分析し、数字をもとにわかりやすい文章で表現することができるようになったことは、仕事にプラスになりました。顧客へ提示する資料に「～と思います」と書いていたものを、「〇〇という結果から、□□だと考えられます」というような、根拠のある、説得力のある文章を書けるようになりました。また、修士論文を執筆したことで、周囲には「学習(学修)意欲のある人」「根気のある人」と思われるようになったかもしれません。また、「数字に強いんだね」と言われたこともあります。経済学でいう「シグナリング効果」でしょうか。以前は窓口業務をしていましたが、現在はリスク管理の部署で大学院で得たことを活かしています。大学院進学はキャリアパスにも影響したのだと思います。

### 入学検討者へのメッセージ

門叶: 公益大は、学部・大学院どちらも、多様なテーマに触れられることが特長だと思います。大学院では、社会人の方と一緒に学べますし、先生との交流機会もさらに増えます。研究を通して、他の活動や仕事に活用できる「トランスファラブルスキル」が身に付けられるので、学部からストレートで入学する方にもおすすめです。

遠藤: 研究は体力も根気も必要と言われます。私も不安でした。でも、先輩・同期・後輩・先生方からたくさんアドバイスをいただき、研究を進めながら「思ったよりも論文を書けるな」と思うようになりました。仕事や分野が異なるなど、何かしらの理由をつけて大学院に入学しないことは、もったいないです! きっと、みなさんも研究ができますよ。

**三木**：学年が異なる社会人院生の遠藤さんとストレートマスターの門叶さんが、お互いのゼミに参加しあう形が取れたことは幸いでした。お互いに刺激を与え合える良い関係が構築されていたと思います。

大学院で研究したい問題を考察するうえで、適切な専門分野を選ばなければなりません。それが学部での学びと連続しない場合、新たなディシプリン（discipline：ある学問における固有の研究方法の意）を修得する必要性が生じます。遠藤さんは、経済学という新しいディシプリンの修得と格闘し、それを門叶さんがサポートして自身の学びにもなりました。

また、当初想定していた大学院で取り組みたい問題は、考察していく中で異なるリサーチクエスチョンに至ることがあります。遠藤さんは、「明らかにしたいこと」と「明らかにできること」の違いにも苦しみながら研究を続け、成果を上げました。特に社会人の学位取得は簡単ではありませんが、得られるものも大きいと考えます。門叶さんは、間近でその様子に接し、これから修士論文を仕上げている際にとても参考になるはずですよ。

公益大の大学院では、多様な背景をもつ方々が学び、研鑽を積んでいます。現在のそれぞれの立場から新たな一歩をぜひ踏み出してみてはいかがでしょうか。



## 梅津ゼミ

教授 梅津千恵子〔環境資源経済学〕

修士課程2年 黒坂さん（自治体職員／研究テーマ：生活排水処理）

修士課程1年 三浦さん（学部卒業生／研究テーマ：水資源の経済的影響）

## 入学のきっかけ

**黒坂**：自治体職員として働いて7年目に大学院に入学しました。3年ずつ2つの部署で業務を経験して、人事異動のタイミングだと予想してはいたのですが、大学院への就学派遣は予想外のことでした。研究テーマについてはさまざま検討した結果、直前の部署の業務で関わっていた生活排水処理に決め、経営の効率性という観点からアプローチしたく、梅津先生に研究指導をお願いしました。

**三浦**：私は、学部時代の先輩が大学院に進学され、学会での発表など充実した院生生活の様子を聞いて大学院進学に興味を持ちました。物事を知ることが楽しいですし、もっと追求・追究したいという気持ちがずっとあります。学部の卒業論文のテーマは水路に関する国際条約で、大学院でも国際河川の研究をしたいという希望がありました。実は関西地方にある他の大学院も入学を検討したのですが、環境経済学の観点からも研究したいと考え、梅津先生に指導していただきたく公益大に決めました。

## ゼミの様子

**黒坂**：1年次のゼミでは文献レビューが中心です。文献を読み要約し、ゼミの時間で発表という形式です。初めのころは、ひさびさの学生生活ということもあり、文献をずっと読み解いていくことが難しく、「この先論文が書けるのだろうか…」と不安に思っていました。1年次の後半には、研究テーマや分析方法を具体的に絞り込めるところまで辿り着きました。毎週のゼミで梅津先生にアドバイスをいただいたおかげです。困っていることを正直に話せるゼミの時間はありがたいですね。



**三浦**：そうですね。私は梅津先生からだけでなく黒坂さんにもさまざま

アドバイスをいただいています。問いかけをもらうことで、自分の理解が不足していることに気づくことができたり、説明することにより理解が深まります。その場で回答できないために「あとで調べてみます」と言うと、梅津先生も黒坂さんも「いや、ここ（ゼミ）でやりましょう」と言ってくれて、「こう捉えたら、答えに辿りつくんじゃない？」など、その場で回答を導き出すサポートをしてくださいます。黒坂さんの発表を聞いていると学びがありますし、分析対象を何にすれば成り立つかなど、私自身の研究に置き換えて考える機会にもなっています。

## 大学院入学を通しての気づき

**黒坂**：仕事でやってきたことを研究テーマにしていますが、業務とは違う視点で考えられるのは新鮮ですね。自治体職員として働いている間は、課題があったとしても、予算や人員の都合でなかなか対応が進められないこともありましたが、研究では一旦それを除いて経済学的にどうかを考えることができます。そこで導き出されたことを実務に還元したいです。それから、大学院の授業はディスカッションが非常に多く、自分の考えを発信するだけでなく、他者の考えから新たな気づきを得る良い経験になっていると思います。

## 院生生活

**黒坂**：共同研究室に来ると、自宅とは違って余計なものがないため、集中できますね。科目の課題に行き詰まったときには、他の学生に相談もできます。

**三浦**：私も自宅ではなく共同研究室のほうが課題に集中できます。夕方の授業の前に4~6時間ほど自習で滞在したり、アルバイト終わりに来たりします。24時間快適に研究できますよ。

## 入学検討者へのメッセージ

**黒坂**：公益大大学院では、様々な立場や考えを持つ人と交流できます。また、自分が学びたいと思ったことに真剣に取り組める環境が整っていると思います。

**三浦**：公益という視点から研究したい方には、適していると思います。ぜひ見学に来ていただきたいです。



**梅津**：今年度からゼミの院生が黒坂さんと三浦さんの2名となり、ゼミでの議論がさらに活発となって相乗効果がとても素晴らしいと感じています。大学や大学院は人と人が集まり出会うことで皆で切磋琢磨する場所なんだとあらためて思います。東アフリカに「早く行きたければ一人が進め。遠くへ行きたければみんなが進め。」ということわざがあります。私のゼミでは国内外の環境資源経済学という観点からレジリエントな社会を目指す研究を行っています。院生時代に普段考える範囲を飛び越えて思索する時間はとても貴重でかけがえのないものだと思いますので、ぜひ公益大大学院での学びをご検討ください。

## 門松ゼミ

教授 門松 秀樹 [日本政治論・日本政治史]

2022年9月修士課程修了 齋藤 さん

(中学校教員(英語科) / 研究テーマ: 教育の歴史と公益)

## 大学院進学のかきつけ

齋藤: 働いていて、教員に求められることが変わってきていると感じていました。ギガスクール構想により生徒たちに1人1台タブレット端末が配られ、疑問に思うことはすぐに自分で調べることができます。教員は教えることよりも、生徒自身が主体的に何ができるようになるか、どのように学ぶかを伝えることが重要な時代になりました。人生100年時代、リスキリング、マルチステージなど、生涯にわたって学び続けることが必要になった今だからこそ、教員である私が学ぶことを止めてはいけな、探究し続けることが必要だと思い、大学院進学を決めました。



## 院生生活

齋藤: 仕事と大学院との両立は難しかった分、時間管理がうまくなったと思います。大学院の講義や演習では課題が多く大変なこともありましたが、その分仕事のメリハリができました。職場からも配慮していただき、大変助かりましたし、他の院生の存在も励みになりましたね。忙しい、大変ではありましたが、私はやりがいを感じていたのでつらくはなかったです。

## 研究テーマ、演習の進め方について

齋藤: 教員という立場として、教育格差(学校間格差、地域格差)、子どもの学びの不平等さに課題があると感じて、近代教育制度の黎明期である明治後期において活躍した教育者の思想や行動に対する考察を通じて、教育の公益性を明らかにすることを研究テーマとしました。

門松: 齋藤さんから、庄内地域で教育の普及に尽力した教育者について調べたいという話がありました。その人物の思想などについては本人が残した史料、教育の格差について当時の統計などの資料、この史料と資料を組み合わせていく形で、いかに義務教育を普及させるかの事例を追うことにより当時の教育の意義、教育の公益性を考える手がかりが出てくるのではないかとアプローチで研究を進めていきました。

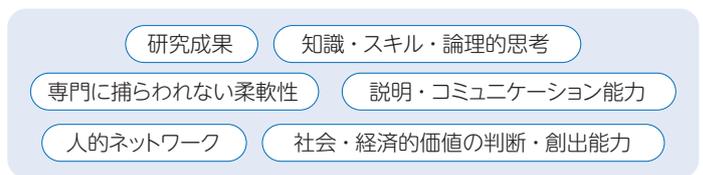
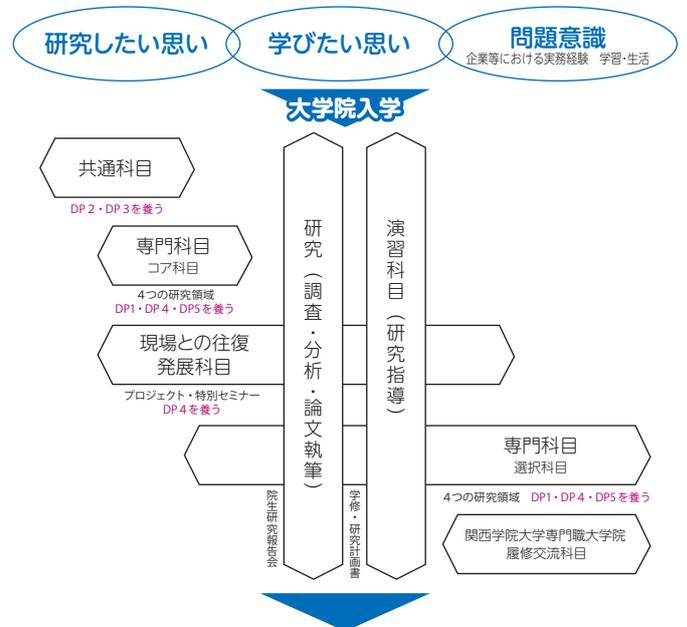
齋藤: 研究を初めて進める上で、論文の書き方、文献の当たり方、調査方法などを教えていただきました。古文書の旧字が読めなくて苦労はしましたが、丁寧に教えていただき充実した時間となりました。修士論文の執筆がうまく進まない時期もあり、もがき続けた記憶がありますが、今となればそれもとてつ貴重な時間であったと感じます。

## 入学検討者へのメッセージ

齋藤: 私は学ぶことの大切さを教えてもらいました。大学院修了後は学びたい気持ちが更に強くなり、3年かけて高等学校の公民の一種教員免許状も取得しました。生涯にわたって学び続けることが自分の幸せにつながっています。そういった環境が公益大大学院にあります。

門松: 大学院は行って当たり前という時代ではなく、やりたいことが明確な人が大学院に進学しています。修士課程の院生は、論文を書くことは大変ですが、探究心や熱意を強く感じます。明らかにしたいという目的がしっかりしているので、指導教員はその手伝いをします。ご自身の関心に沿って必要な情報を集めて、それを元にディスカッションを進めます。これが学部と大学院の大きな違うところなので、社会や身の回りに課題を感じていることがある方、それを明らかにしたいという思いを少しでも持っている方は大学院への進学をご検討ください。

齋藤: いずれは博士後期課程にも挑戦してみたいと思っています。その際は門松先生にまた指導していただきたいです。

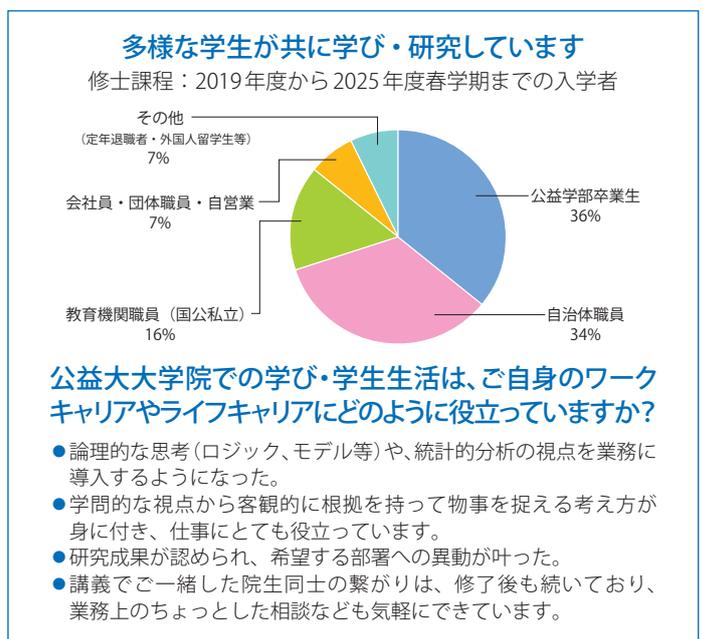


養成する人材像に重なるような活躍・キャリアアップ  
自己成長 現場の課題解決

## ディプロマ・ポリシー(修士課程)

必要な単位数を修得し、次の知識・能力を身につけた人材に学位を授与します。

- DP1 課題の研究に必要な専門知識及びディシプリン
- DP2 自ら課題を発見し、課題を客観的に分析し、仮説を構築・検証する能力
- DP3 課題の解決に向け多様な主体と対話し協働する能力及び社会を先導する力
- DP4 社会的責任・異文化・多様な価値観に対する深い理解力
- DP5 既存のシステムに囚われず、新たなしくみを提言できる力



# 入学を 検討される方へ

## 入学を検討される方へ

本学大学院への入学を検討するにあたり、「大学院の授業・研究はどのような様子だろうか」と心配される方も少なくないかと思います。ぜひ下記を利用して、大学院での学びを体験してください。

<p><b>オープンキャンパス・授業見学</b></p> <p>オープンキャンパスへの参加や授業の見学(要事前相談)が可能です。また、一部の科目については、公開講座として地域の方にも公開しています。</p>	<p><b>教員との面談</b></p> <p>本学教員の専門分野は多様です。入学後は研究指導教員から指導を受けながら論文を執筆するため、ご自身の関心がある分野の教員との事前の面談が必要です。</p>	<p><b>修士課程 科目等履修生 としての入学</b></p> <p>本ページ左下を参照ください</p>	<p><b>研究生</b></p> <p>在学期間は半年または1年です。特定の研究課題について教員の指導を受けます。詳しくはお問い合わせください。</p>
---	--	---	---



アドミッション・ポリシー

## 入学者選抜

日程	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続き期間
第1期	2025年10月1日(水)～10月24日(金)	2025年11月29日(土)	2025年12月5日(金)	2025年12月5日(金)～12月19日(金)
第2期	2025年12月1日(月)～2026年1月23日(金)	2026年2月21日(土)	2026年2月27日(金)	2026年2月27日(金)～3月13日(金)

出願期間・入学手続き期間は、最終日書類必着です。出願資格や書類提出等の詳細については、「入学者選抜要項」を請求の上、ご確認ください。

## 学費

種類	金額	備考
入学金	県内者	282,000円
	県外者	564,000円
授業料(年間)	535,800円	入学後に、2期に分けて納付していただきます。

- 本学大学院 修士課程修了者が博士後期課程に入学する場合、入学金は徴収しません。
- 上記の他に、保険料の納付が必要です。(2年度分約2,500円、3年度分3,700円)
- 履修した科目で使用する教科書・参考書の購入費用や、研究にあたり必要となる書籍の費用、フィールドワークの際の交通費等は、院生の自己負担です。
- 在学中に授業料等が改定された場合は、改定後の授業料等が適用されます。

## 科目等履修生

正科生以外にも大学院で開講する科目の履修を認める制度です。修士課程の科目を1科目から学ぶことができます。複数の科目で1つのプログラムを構成する「履修証明プログラム」もあり、ご自身の仕事等に必要なる理論・スキルの修得に活かすことや、正科生としての入学の前段階にご活用ください。

科目等履修生として単位を修得した後に、本学大学院修士課程に正科生として入学した場合、申請により修得した単位は正科の修得に必要な単位として認定することも可能です。

## 履修者の声



大学院では、地方にいながら最前線・最先端の知識を得られますので、履修を通して政策に活かしていきたいと考えています。私にとっては、世代・職種が異なる人と気軽に話せる「サードプレイス」でもあります。

授業を通して得た理論やスキルが、実務と結びついています。レポート課題が中心の通信教育とは違い、その場ですぐに先生や他の学生と話ができるので、内容の理解が深まります。



問い合わせ  
アクセス

東北公益文科大学 大学院事務室 (鶴岡キャンパス)

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1

TEL 0235-29-0555

E-mail gs@koeki-u.ac.jp

HP・URL <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/>



大学院HP

- 庄内空港から  
車・バス約20分
- 鶴岡駅から  
車・バス約10分
- 鶴岡ICから  
車で約10分
- 山形駅から  
高速バス約2時間
- 仙台駅から  
高速バス約3時間

